

働く女性が活躍する未来へ

アクサ生命

柳川営業所所長 米崎 淳子 さん

商工会議所の共済といえ、アクサ生命ですが、どうしてアクサ生命なのかという理由まで知っている人は多くはありません。今回はそういった疑問から現代の女性の働き方までの幅広いお話を、昨年よりアクサ生命柳川営業所の所長として赴任された米崎所長にお伺いしました。

商工会議所と アクサ生命の歩み

ものづくりの国「日本」、地域ごとに主な産業は異なるけれど日本の産業の根幹を中小企業が支えています。「勤労者の福祉のためにわが国でも団体保険を取り入れるべきである」との提案で昭和九年に、全国産業団体連合会・全国の商工会議所が推進母体となり団体保険専門会社として日本団体生命保険株式会社が誕生。ある地域の商工会議所理事より昭和42年に中小企業

向けの地域の共済制度ができないかとの声で商工会議所の共済がスタートしました。2000年にアクサ生命と業務提携をし、現在に至ります。

「全国商工会議所515商工会議所のうち約99%がアクサ生命の共済を採用して頂いております」

アクサ生命は商工会議所との強固な絆を礎に中小企業の福利厚生制度の向上に貢献していきたいとの思いで一つ一つ積み上げていきたいと思っています。これからも、大川の会員事業所とそこで勤務されている従業員さんのためにお役に立てるように貢献して参ります。

柳川の営業所長となられて約一年が経過した米崎所長。せっかくなので、大川の印象もお伺いしました。

「大川といえば、やはり木工の街という印象があり、事業所も歴史があり店舗も老舗的

な外観を残しつつも店内はお洒落な作りの事業所が多いですね。事業所の方も仕事に対してとても情熱的で、事業所に対して愛着がある方が多いイメージを持ちました。それが老舗といわれる事業所さんも多い理由なのかなと。また商工会議所様との共催事業に熱心で、地域に密着したアットホームな印象を受けました」

今年一月に開催された大川地区合同新年祝賀会にも参加された米崎所長。そこでも大川の熱気を感じられたとのこと。

「あんなに盛大な祝賀会は初めてで、すごく驚きました。昨年着任して大川の事業所様一軒一軒すべてお伺い出来ていないのでこういった会でご挨拶できてとても嬉しく思いました。ありがとうございます」

大川市外から大川に来られた米崎所長だからこそわかる





アクサ生命大川分室 推進員のみなさん

気付きもあつたそうです。「いまでも十分活気があり将来の可能性に満ち溢れた大川だからこそもっと盛り上がりつつていくにはやっぱり後継者の皆さんの育成が大事だと感じています。これまで、先代から守り続けてこられた大事な企業だからこそ、円滑な事業承継ができれば更に発展していくのではないかと考えます。早い段階で将来の事を見据えて後継者へ承継する準備を始めることが大切です。事業承継に向けての保険の準備もアクサ生命では取り扱っていますし、事業承継に関するセミ

ナーも開催しております。円滑な事業承継となるように少しでもお役に立てるようにサポートさせて頂ければと思っています」

「加入して頂く保険に関しても、必要性をしっかりと説明して理解してもらおうということが大事です。事業所の担当を決めるということは、その事業所や契約者のパートナーとしてお守りする義務があるとの指導も行っていきます。現在は、保険もネット販売が増えてきました。お会いしないでネットで保険に加入する時代です。だからこそ、私達アクサ生命はお客様に提供するサービスは単なるリスクへの対策ではなく保険の枠を超えてお客様の人生そのものを守る事こそが使命だと考えています。常に、お客様の側について配慮の行き届いたそんな存在でありたい！それが、社員が共有する夢であり理想であり目標です！」

女性が活躍する社会に

米崎所長は平成6年日本団体生命時代に入社され、17年間は営業社員として勤められていました。アクサにはダイバーシティ(多様性)を尊重する企業文化があり女性管理職育成を推進しています。米崎

さんも職種転換をし、現在は営業所長を勤められています。全国には200以上の営業所がありますが、米崎所長が営業所長に就任された当時は全国でも女性の営業所長は6名ほどでしたとのこと。現在は20名程までに増えているとのこと。

「まだまだ女性が保険会社の営業所長、管理職という認識は浸透していませんね。お客様から、重要な商談で責任者に訪問して欲しいと言われることもありました。そんな時こそ、女性だからこそ出来る事もあります！とお話を始めることもありました。アクサ生命としては今後も女性管理職の積極的な登用を目指しています」

とはいえ、女性管理職には不安・心配事がつきものです。これから目指す人にとっても家庭と仕事の両立(子育て・介護)等なかなか実現できないのも現状です。

「アクサ生命では女性会議が本社で開催されます。主に女性管理職を目指す社員の会となつていきます。やはり管理職を目指す方にとって不安は拭えませんが、育児中の長時間勤務は避けたいのですし、この会には私もオプザーバーとして入り、これまでの経験談を話しています。柳川商工会議所では、営業所長が女性所長ということで、初めての女性の商工会議所議員も務めて

います。当初は1名でしたが今年度は5名に増えて、とても議員活動を楽しんでます。大変ですが、やはりやりがいがあります」

米崎所長自身、管理職となられた時はご主人の両親と同居されており、自宅では家事と介護をされていたそうです。家事と介護と仕事の両立ができるかどうか不安だったそうですが、会社のサポートもあり乗り越えられたとのことでした。

「ワークライフバランスを会社も考えてくれています。有給休暇の取得はもちろんですが、日々の早帰りの推進や介護休暇制度、時短労働制度を採用しています。会社は女性が働きやすい職場になるために様々なサポートをしてくれています。最近では男性にも育児休暇を取得するように推奨していますね」

子育てをしながら、いまの仕事が続けられていた米崎所長。その当時は「子供に寂しい思いをさせていたと思う」ともお話されました。

「子供は一歳から保育所にあずけていました。朝ちよつと熱があるかなと思つた時は、保育所にそう伝えて出社することもしばしばありました」

今年で子供さんも二十歳になられ、その当時のことを話す機会があつたそうです。「子供から、保育園でみんなと公園に行った時、平日に母さんと一緒に公園に来てい

る子供がいて、僕もお母さんと一緒に来たいなあと思つていた。でも仕事を頑張つていて、でも仕事を知っているの、自分も我慢していい。そういうお母さんの背中を見てきたから自分も頑張れるという話を聞きました。子供を犠牲にして仕事をしているが故に、お客様に役立てる仕事ができるように、子供に誇つてもらえるように仕事をしたい。はならないと思ひ努力をしてみました。だからこそ、家族のために、一分一秒も時間を無駄にはできませんね」

働く女性が輝ける未来に

女性管理職として日々頑張られていく米崎所長の夢はなんでしょう。

「女性管理職として、これからは皆さんの目標になりたいと考えています。管理職になる時はとても悩みました。でもせっかく会社が私に与えてくれたチャンスです！やる前に悩まずに、何事もイエスと答えて、受け入れる。受け入れたことに対して、自分なりに努力をし続けていきたいと思つています。女性管理職としてお客様・会社・社員の皆さんに貢献することで、今後目指して頂ける皆さんのために、微力ではございますが、誰もが挑戦できるような、厳しい道ではなく緩やかな道を作っていきたいです」と笑顔で語ってくださいました。